

施策マネジメントシート

基本施策名	07生涯学習の環境づくり	施策 統括課	公民館	氏名	清水 周
政策名	3文化・生涯学習・スポーツ	主な 関係課	生涯学習課、図書館		

1 施策の目的と指標

① 対象(誰、何を対象にしているのか)＊人や自然資源等

市民

② 施策の目的

市民一人ひとりが生涯学習に取り組み、様々な局面で学ぶことができるとともに、様々な学びを通して、学習の成果を様々な場面で活かすことのできるまちを目指します。

③ 対象指標(対象の大きさを表す指標)数字は記入しない

名称		単位
ア	人口	人
イ		
ウ		
エ		

④ 成果指標(意図の達成度の指標)数字は記入しない

名称(展開方向ごとに記載)		単位
1	ア 日常何らかの生涯学習に取り組んでいる市民の割合	%
	イ 市が主催する生涯学習事業の参加者数	人
	ウ 図書貸出冊数	万冊
	エ 図書館利用人数	人
	オ 公民館使用者数	人
2	カ	
	ア 学習活動に取り組んでいる市民の中で、学習を通じて身につけた知識や技術を地域や社会に生かしている市民の割合	%
	イ	

2 第2次基本計画期間(令和2～令和9年度)内における取組内容

施策の展開方向		目的	手段(具体的な取組内容)
1	学習機会の充実と学習情報提供の推進	日常的に様々な生涯学習に取り組む市民を増やすとともに、学習を通じて生きがいを得ている市民を増やします。	◆市の生涯学習情報を集約し、多様な手段で情報を提供します。 ◆ライフステージに応じた学習機会の充実を図るとともに、様々なテーマや課題に対応した学習を支援します。 ◆しょうがいのある方々が生涯を通じて、多様な学習・交流機会に親しむことができるよう支援します。 ◆公民館・図書館等の公共施設や教育施設等を活用した学習・交流機会の提供を推進します。また、学習者が利用しやすい施設運営に努めます。 ◆市内の大学・高校、市民団体等の多様な主体との連携・協働により、学びの機会を増やします。
2	学習成果を活かせる環境づくりの推進	生涯学習による市民の学習成果を学校・家庭・地域等の様々な場面で活かせる環境づくりを推進します。	◆学習の成果を活かすことを前提とした講座等を開催します。 ◆図書館協力ボランティアなど、学習成果を地域において活かせる活動を支援します。 ◆市民が学習の成果を活かせるサポートの充実を図ります。

3 総事業費・指標等の実績推移と目標値、実績状況把握

		単位	数値区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度			
対象指標	ア	人	見込み値	76,080	76,098	76,106	76,140	75,925	76,072			目標達成度		
			実績値	76,282	76,423	76,278	76,182	75,816	76,163					
		イ		見込み値									達成・ 未達成	前年度 比較
				実績値										
	ウ		見込み値											
			実績値											
	エ		見込み値											
			実績値											
成果指標	展開 方向 1	ア	%	成り行き値	68.0	68.0	68.0	68.0				達成	低下	
				目標値	65.0	65.0	65.0	65.0	66.0	67.0	68.0			70.0
				実績値	70.0	73.3	-	77.2	74.7					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		日常何らかの生涯学習に取り組んでいる市民の割合 出典元: 国立市市民意識調査								
		イ	人	成り行き値									達成	向上
				目標値	9,250	9,500	9,750	11,000	11,000	11,500	12,000	12,500		
				実績値	4,122	5,358	7,149	8,168	12,026					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		公民館における生涯学習事業の参加者数								
		ウ	万冊	成り行き値									未達成	低下
				目標値	47.0	48.0	49.0	50.0	50.0	50.0	50.1	50.2		
				実績値	39.4	46.2	43.1	41.0	40.3					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		図書館における図書貸出冊数								
	エ	人	成り行き値									未達成	向上	
			目標値	13,950	14,000	14,050	14,100	14,500	15,000	15,200	15,270			
			実績値	12,203	13,089	12,136	12,849	12,908						
			基本計画における 指標の説明又は出典元		図書館の年間貸出利用人数									
	オ	人	成り行き値									未達成	向上	
			目標値	71,000	72,000	72,000	73,000	73,000	74,000	74,000	75,000			
			実績値	29,891	38,947	47,144	49,152	52,837						
			基本計画における 指標の説明又は出典元		公民館施設利用者及び同主催事業への参加者数									
	展開 方向 2	ア	%	成り行き値	35.0	35.0	35.0	35.0	35.0			未達成	低下	
				目標値	32.0	32.1	32.2	32.2	32.3	32.3	32.4			32.4
				実績値	28.7	29.8	-	26.7	22.5					
				基本計画における 指標の説明又は出典元		学習活動に取り組んでいる市民の中で、学習を通じて身につけた知識や技 術を地域や社会に生かしている市民の割合 出典元: 国立市市民意識調査								
施策 コスト	事務事業数			本数										
	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円										
			都道府県支出金	千円										
			地方債	千円										
			その他	千円										
			一般財源	千円										
	人件費		事業費計 (A)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0		
			延べ業務時間	時間										
			人件費計 (B)	千円										
			トータルコスト(A)+(B)	千円	0	0	0	0	0	0	0	0		

4 施策の成果指標実績値に対する評価

(1) 施策全体の成果実績目標達成度 A(高度に達成)～E(ほぼ未達成)

C:一部の成果指標について目標を達成した

(2) 時系列比較(過去3ヶ年の比較) A(かなり向上)～E(かなり低下)

B:成果がどちらかと言えば向上した

(3) 上記(1)(2)の理由・背景として考えられること(数値で表せない定性的評価もあれば記載する)

・公民館における生涯学習事業の参加者数が増加した背景には、広報の強化が挙げられる。各講座においての広報は公民館だよりが中心であったが、令和4年度より、カラーポスターを作成し館内及び市内広報掲示板等での周知に力を入れたり、ホームページの刷新やSNSでの発信、WEB申込を順次行ってきたりしたところ、定員以上の応募のある講座が増加した。各講座ごとに聴取しているアンケートからも、「公民館を初めて利用した」との設問回答が増えていることが確認できる。

・新型コロナウイルス感染症の影響により著しく低下した生涯学習施設の利用者、および、生涯学習事業への参加者については、コロナ禍以前の状況に向けて回復傾向が見られるが、全体的に回復が追い付かず、下回っている様子が見られる。これらは公民館や図書館に限ったことではなく、郷土文化館や体育館、芸小ホールにおいても同様の状況が見られる。

これは、コロナ禍を通じて、高齢者による学習グループ等が活動停止になったこと等に加え、そもそものライフスタイルの変容により、つどい、まなびあう、といったスタイルから変化している様子がうかがえる。オンライン活用が選択肢に入ってきたことの影響もみられる。

このことについては経過を注視する必要がある。

●以下は、現在の評価指標上の目標未達成理由に該当するものではないが、施策の向上を目指す上で検討すべき事項として記す。

・定量評価は評価基準として適切であるが、公民館(講座の参加者、部屋の利用者のみ)も図書館(図書を借りた人数もしくは借りた冊数)も限定された人数の計上に留まっている。施設入口に自動計測のカウンターが未設置であるため、図書や新聞の閲覧、ロビーでの学習、喫茶室の利用など、「その他の来館」がカウントされる環境になく、定量評価のための環境が不十分である。

・また、市全体における生涯学習の環境づくりが本施策の目的であるのに、成果指標「展開方向1」の「イ」や「オ」が公民館のみを対象としていたり、「ウ」や「エ」に公民館図書室分が含まれていないなど、成果指標が不十分である。本来の目的に沿った形で、その他の郷土文化館や芸小ホール、体育館における実施事業も含めることを検討すべきではないだろうか。

5 施策の現状 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか？

○国は、令和5(2023)年6月「第4期教育振興基本計画」において、「持続可能な社会の創り手の育成」、「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」をコンセプトに掲げ、5つの基本的な方針のうち「3. 地域や家庭で共に学び支え合う社会の実現に向けた教育の推進」を掲げ、その教育政策として「社会教育を通じた持続的な地域コミュニティの基盤形成」「公民館等の社会教育施設の機能強化、社会教育人材の養成と活躍機会の拡充」「生涯学習社会の実現、障害者の生涯学習の推進」を挙げている。

○平成30(2018)年12月の中央教育審議会「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について(答申)」では、今後は「個人の主体的な学びを出発点とし、学びやその成果活用を通じた他者とのつながりの実感や積極的な地域活動への参画を経て、更なる学びを求める「学びと活動の循環」につなげていくことが重要」であり、『社会教育』を基盤とした人づくり・つながりづくり・地域づくりの一層の充実が図られるよう、としている。

○令和3(2021)年3月に東京都が策定した『未来の東京戦略』では、戦略6「ダイバーシティ・共生社会戦略」の中で、「インクルーシブシティ東京プロジェクト」を挙げている。ここでは「東京で働き、暮らす誰もが、共に交流し、支え合う共生社会『インクルーシブシティ東京』を実現するため、様々なシーンで多様な人が共に支え合う環境づくりを推進するとともに、一人ひとりがお互いを認め合い、尊重しあう社会を実現」するとしている。

○国立市では、令和元(2019)年5月に「国立市生涯学習振興・推進計画」を策定し、すべての人が平等かつ主体的に学ぶことができる生涯学習社会の実現に向け、市民の多様な学習や活動を支援し、生涯学習に関する施策を総合的かつ計画的に推進を図っている。令和5～6年度に中間評価を行った。

○本計画では、国立市の生涯学習をめぐる課題として、「学習情報の収集・発信」、「学習機会の充実」、「学習の成果を活かせるサポートの充実」、「施設や場の拡充、職員の専門性の確保」、「適切な事業評価方法の検討」の5つの面から多様な課題をあげている。

○国立市では、地域住民の生活における問題や地域の課題を解決するための学習に関する各種事業を実施し、教養の向上や健康の増進、豊かな感情の醸成を図るとともに、市民の自主的な学習やサークル活動を支援し、図書館や公民館等の生涯学習施設は、その成果を活かせる環境づくりを行っている。

○図書館の貸出冊数は、減少傾向にあり、令和5(2023)年度では40.9万冊、コロナ以前の平成30(2018)年度の49.8万冊と比べ17.8%(8.9万冊)減少している。

○国立市では、平成20(2008)年11月に「国立市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもたちの成長に良い影響を及ぼし、様々な機会に本と出合えるよう、市全体として読書機会を増やすための環境整備に取り組んできました。現在、令和6(2024)年度～令和10(2028)年度を計画期間とする「第四次国立市子ども読書活動推進計画」を策定し、事業を推進している。

○図書館とともに、地域住民に最も身近な学習拠点である公民館の利用者数は、令和6(2024)年度では49,152人であり、コロナ以前の平成30(2018)年度の70,896人と比べ21,744人減少している。

○今後は、幅広い市民の生涯学習の促進に向けて、まずは生涯学習に取り組む市民の人数をコロナ以前の水準まで回復させることが求められている。このために、市の生涯学習情報を一元的に集約し、ICTを含め多様な手段での情報発信、多様な学習機会の提供、学習者の利用しやすい施設運営とともに社会参加に制約のある市民(例えば、しょうがいしゃや外国人等)のソーシャルインクルージョンを意識した取り組み等が必要である。また、学習成果を活かせる機会が市民の学習意欲を高めるという視点に立ち、学んだ成果を活用できる環境整備とともにそうしたサポート体制の充実が課題となっている。

(2) この施策に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

- ・公民館は地域の学習の場であることから、中学校区に1館と言われているが、国立市内には国立駅近くの北部に1館しかない。そのため、少なくとも南部地域に増館する必要がある、との声がある。
- ・生涯学習活動の充実のために、図書館や公民館は直営方式を維持することを求める声がある。
- ・公共施設の充実のために、複合化し、新設することを求める声がある。
- ・第24期国立市図書館協議会報告と提言において、市民に公平なサービスを提供する上で全域サービスの地域拠点として分室の活性化が提言として述べられている。
- ・公民館の講座について、対面と共にオンラインを併用するハイブリッドでの実施を求める声がある。
- ・公民館の会場利用について、WEB申込に切り替えて欲しいとの声がある一方、細かく部屋の貸出が可能である現行のやり方(会長生会方式)の継続を希望する声がある。

(3) この施策に関して他自治体の取組状況と比較して国立市の取組状況はどうか？

- ・近隣自治体における公民館等地域学習施設の設置状況は、府中市11館、国分寺市5館、立川市17館(地域学習館等類似施設)、小平市11館、小金井市5館であり、国立市の1館は極端に少ない。
- ・国立市民は近隣市の住民と比べ、学習意識や自治意識が高い傾向にあると言われている。社会教育や生涯学習に対する要望も同様にあると思われ、施設数は少ないものの、当市の本施策等の取り組みも他自治体と比較して前向きで先駆的な取り組みを展開しているといえる。

(4) 施策の具体的な取組状況

6年度の取組状況	7年度の取組予定
＜生涯学習課＞ ・「生涯学習振興・推進計画」に基づく事業の実施及び検討を行った。 ・「わくわく塾くにたち」に14件の申し込みがあり、延べ134名が参加された。 ・サークル・団体登録名簿で約120の団体を掲載している。 ・第25期社会教育委員の会において諮問事項「国立市の生涯学習・社会教育分野におけるICT活用による学習機会充実の可能性について」討議が重ねられた。令和7年4月に答申される予定である。 ・毎年1回行っている家庭教育講座であるが、R6年度は中央図書館開館50周年を踏まえ、「本とお話の楽しみを子どもたちに」をテーマに講座を開催し、多くの方が参加された。 ・マタギの地恵体験学習会に参加した。 ・後援等名義申請のあったものについて、審査し、承認を行った。	＜生涯学習課＞ ・「生涯学習振興・推進計画」に基づく事業の実施及び検討を行う。 ・出前講座「わくわく塾くにたち」を実施し、市民の学びを支援する。 ・サークル・団体登録名簿を公開し、市民の学びや活動を支援する。 ・第25期社会教育委員の会より、諮問事項「国立市の生涯学習・社会教育分野におけるICT活用による学習機会充実の可能性について」答申が提出される。第26期社会教育委員の会では、新たなテーマで討議が行われる。 ・家庭教育講座を開催する。 ・北秋田市の開催するマタギの地恵体験学習会に参加する。 ・後援等名義申請のあったものについて、審査し、承認を行う。 ・くにたちの生涯学習ガイドを改定する。

<公民館> ・現代的課題や地域・生活課題などの様々なテーマを取り上げ、市民の自主的な学びを促し、学習が地域還元されるよう社会教育を実践した(主催講座は48講座実施(588回)し、延べ12,026人の参加を得た)。 ・多様な主体との連携・共同による学びの機会を作った(一橋大学との連携講座、市民ボランティアの協力を得た日本語学習支援事業、社会福祉関連NPOとのリカバリーの学校事業、庁内他課や消防団、地域住民と広く連携した地域防災講座、など)。 ・社会教育関連施設による1課3館(生涯学習課、公民館、図書館、郷土文化館)連携会議を実施した。中央図書館開館50周年、郷土文化館開館30周年、公民館70周年を記念し、「本からまなぼう」をテーマとして、本棚をシェアする「まちじゅう本棚」事業や絵本の講座、ドキュメンタリー映画の上映会などを実施した。 ・公民館図書室では年間22,729冊の貸出利用があった。 ・公民館だよりを毎月発行し、市内全戸の他、駅や公共施設等で配布した。モノクロの公民館だよりについて、年間数回のカラー化を試行した。 ・公民館ホームページを予算をかけずに刷新し、公民館だよりや市公式SNSと連動、WEB申込なども導入した。 ・第34期公民館運営審議会を開催し、審議・調査等を実施した。館長諮問『公民館の運営や事業に「市民の声」を活かしていくための方法や工夫について』に対する答申が提出された。11月より第35期公運審がスタートした。 ・市民グループ等が自ら実践する文化・芸術活動の研鑽、発表、市民やグループとの交流等が行いやすいよう、公民館の各室を提供した。施設全体の年間利用率は65.2%。 ・市民参加の実行委員会形式による、第69回市民文化祭を開催し、23の市民グループが参加した。 ・第二小学校改築及び西福祉館との複合化に公民館が連携し、中・西地域における「多世代に向けた「つながる居場所」地域交流拠点整備事業」が、東京都の補助事業「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」に採択された。これにより、地下1階女性トイレ1基の洋式化、1階男女トイレの便座更新、市民交流ロビーの展示パネル購入、講座室使用の学習椅子の購入、液晶モニターの購入を実施した。	<公民館> ・公民館開館70周年を記念し、市民有志と共に、記念式典、講演会等のイベント、公民館メッセージの作成・掲示、記念サッシの作成等を行う。 ・現代的課題や地域・生活課題などの様々なテーマを取り上げ、市民の自主的な学びを促し、学習が地域還元されるよう社会教育を実践する。 ・多様な主体との連携・共同による学びの機会を創出する。 ・社会教育関連施設による1課3館連携事業として、職員研修や事業を実施する。 ・公民館図書室を運営し、図書を通じた学びを支援する。 ・公民館だよりを毎月発行し、市内全戸の他、関係施設等で配布する。 ・第35期公民館運営審議会を開催。審議・調査等を実施する。 ・市民参加の実行委員会形式で第70回市民文化祭を開催する。 ・照明のLED化工事を全館において実施する ・東京都の補助事業「子供・居場所・長寿区市町村包括補助事業」を活用し、公民館施設の充実に図る(R7年度はトイレ環境の整備を実施予定)。
<図書館> ・児童サービス、しょうがいしゃサービスを実施し、多様な世代や多様な読書ニーズに対応した資料提供を行った。 ・電子図書館システムを運用し、非来館・デジタルによる資料提供を行った。 ・図書館報「いんふおめーしょん」を月1回発行し、図書館事業の周知広報を図った。 ・第24期国立市図書館協議会より図書館運営について審議を踏まえ、「第24期国立市図書館協議会報告と提言」を受理した。 ・中央図書館開館50周年記念事業として多くのイベントを実施したが、スタンプラリー2,277人、野外映画会約300人等多くの参加者があった。 ・令和7年2月にシステム更新を行い、利用券のスマートフォン表示、リマインドメールの導入、ホームページの刷新を行った。 ・おはなしボランティア養成講座と中級音訳者講習を実施した。	<図書館> ・多様なニーズに合わせ、様々な形態の資料を収集・提供し、読書バリアフリーの実現を図る。 ・ボランティアの育成やスキルの維持向上を図る。 ・第25期国立市図書館協議会において図書館運営について審議・調査等行う。 ・第四次国立市子ども読書活動推進計画に基づき、乳幼児期からの読書習慣の形成につながる事業を行う。 ・令和8年度に予定されている中央図書館外壁改修・LED化に向けて実施設計を行う。 ・中高生世代の読書活動推進の目的で、YA向け図書やYAコーナーの充実に図る。

6 6年度の評価結果 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1) 施策の全体総括(成果実績やコスト、見直しを要する事務事業等)※基本的に展開方向ごとに記載

総合基本計画に照らして評価する(目的達成のための事務事業が適切か、事務事業の実施方法は適切か)

○成果実績
〈展開方向1〉学習機会の充実と学習情報提供の推進 ・生涯学習課で毎年1回行っている家庭教育講座であるが、R6年度は中央図書館開館50周年を踏まえ、「本とお話の楽しみを子どもたちに」をテーマに講座を開催し、多くの方が参加された。 ・小学4～6年生の児童13名がマタギの地恵体験学習会に参加し、北秋田市の文化や自然を体験した。今後、北秋田市とのさらなる交流が期待される。 ・公民館では、現代的課題や地域・生活課題などの様々なテーマを取り上げ、市民の自主的な学びを促し、学習が地域還元されるよう社会教育を実践した(主催講座は48講座実施(588回)し、延べ12,026人の参加を得た)。 ・公民館では、多様な主体との連携・共同による学びの機会を作ったことにより、多くの公民館利用者を新規で獲得できたことと共に、社会教育の広がりの可能性について示すことができた。 ・社会教育関連施設による1課3館(生涯学習課、公民館、図書館、郷土文化館)連携会議を実施した。中央図書館開館50周年、郷土文化館開館30周年、公民館70周年を記念し、「本からまなぼう」をテーマとして、本棚をシェアする「まちじゅう本棚」事業や絵本の講座、ドキュメンタリー映画の上映会などを実施した。これにより、各施設が個別に事業を行い、そこに市民が参加するということに留まらず、全市的な取り組みとなり、広く社会教育に関心を持ってもらえるきっかけとすることができた。 ・公民館図書室は公民館活動の「入口」として、市民が資料を通じて学びを深め、グループ活動や主催事業への関心の喚起や、豊かな人間関係をはぐむ援助となることを目的として運営し、年間で22,729冊の貸出利用があった。 ・公民館だよりは主催事業の案内のみならず、講演要旨や参加者の感想を掲載し、参加できなかった市民のまなびを支えると共に、公民館事業への参加を促す、利用者の学習メディアとして位置づけており、毎月発行し、市内全戸の他、駅や公共施設等で配布した。また、他の広報誌がカラー化する中、公民館だよりは現在もモノクロ紙面となっており、「訴求力が弱い」等と評されることも多いため、紙面調整を行い、年間2回のカラー化を試行した。 ・公民館だよりの紙面構成の工夫などが評価され、全国公民館連合会主催の第10回全国公民館報コンクールで特別賞を受賞した。 ・公民館ホームページについては「使いにくい」といった声が多くあったが、予算をかけることは困難であったため、職員内で調査・研究を行い、機能を最大限活用し、予算をかけずに刷新し、公民館だよりや市公式SNSと連動させたり、WEB申込なども導入することができた。これにより、利用者からは利便性が向上したとの評価を得ている。 ・公民館運営審議会を毎月開催し、館長諮問『公民館の運営や事業に「市民の声」を活かしていくための方法や工夫について』に対する答申が10月に提出された。第35期公運審が11月に委嘱し、スタートした。 ・中央図書館開館50周年記念事業においては様々な関連事業を行ったことにより、普段図書館を利用しない市民の参加が多くあり、図書館事業の周知広報、読書活動推進に役立った。 ・おはなしの語り手養成講座、音訳ボランティア中級講座の実施により、市民ボランティアに対する学習機会の提供とスキルアップを図ることができた。 ・システム更新による新機能の追加を行ったことにより、図書館利用の利便性が向上した。 ・第24期国立市図書館協議会において、「第24期国立市図書館協議会報告と提言」が提出されたことにより、図書館の現状と今後の方向性に関する検討課題が把握できた。 〈展開方向2〉学習成果を活かせる環境づくりの推進 ・市民グループ等が自ら実践する文化・芸術活動の研鑽、発表、市民やグループとの交流等が行いやすいよう、公民館の各室を提供した。施設全体の年間利用率は65.2%。 ・コロナ禍の影響で参加団体が減少していた市民文化祭には、新たな参加団体も加え、令和5年度と同程度の23の市民グループが参加した。引き続き新たな参加団体が増えるよう工夫していく。「市民文化祭」は令和7年度には70回を迎えるが、公民館を中心とした発表イベントに収まっているので、市域全域に広く呼びかけ、市域全体で開催されるイベントとなるよう検証を重ねる。 ・老朽化する施設にあって、計画的な修繕が課題となりながら、全庁的な財政課題から即時対応ができない状況にある。そうした中、第二小学校改築及び西福祉館との複合化に公民館が連携し、中・西地域における「多世代に向けた「つながる居場所」地域交流拠点整備事業」が、東京都の補助事業「子供・長寿・居場所区市町村包括補助事業」に採択されたことから、地下1階女性トイレ1基の洋式化、1階男女トイレの便座更新、市民交流ロビーの展示パネル購入、講座室使用の学習椅子の購入、液晶モニターの購入を実施した。 ・中央図書館開館50周年記念式典において、各種ボランティア参加者に対する感謝状授与式を行ったことで、ボランティア事業の紹介や交流につながった。 ・図書館の中高生ボランティアYAすたっふにおいて、すたっふ自身が企画運営を行った講座を実施したことで、ボランティアの主体的活動への意欲向上につながった。 ・しょうがいしゃサービスにおいて三者交流会(利用者、音訳・点訳ボランティア、図書館職員)を実施し、サービスに関する意見交換をしたことから、ボランティア活動の方向性の確認ができた。
○改善余地のある事項・課題等
〈展開方向1〉学習機会の充実と学習情報提供の推進 ・図書館では、読書におけるバリアフリーに留意し、多様な形態の資料の収集および提供とその周知を実施する。 ・社会情勢と市民ニーズを捉えた蔵書構成の更なる構築 ・公民館では、多様な主体との連携・共同による学びの機会の創出については、これまで以上に注力することが求められている。 ・公民館だよりのカラー化が求められているが、予算の壁は大きいため、今後も検討課題となる。 〈展開方法2〉学習成果を活かせる環境づくりの推進 ・学習成果を地域で活かせるように、一層の支援や助言をする必要がある。 ・市民文化祭の参加団体を増加させるための工夫を検討し実施する。 ・図書館ボランティアの活動場所の拡充

(2) 施策の6年度における総合評価

C	成果実績数値の評価(A～E)に、4(3)及び6(1)の定性的要素を加味した評価 A:目標とする成果を挙げており、社会的要請にも十分応えられている。 B:一定の成果を挙げているが、向上・改善の余地がある。 C:成果向上のため、一層の努力が求められる。 D:成果に乏しく、改善が急務である。事業の一部に見直しが必要である。 E:現状の事業では施策の目的を達成することが困難であるため、抜本的な見直しを要する。
---	---

7 施策の課題・今後の方向性 ※必要に応じて展開方向ごとに記載

(1)8年度の取組方針

- ・生涯学習振興・推進計画に基づき関係機関と連携しながら事業を行っていく。
- ・公民館主催事業や講座を中心に市民の学習意欲の向上や学びを地域社会に還元できる取り組みを実施する。適宜、事業評価を行った上で、若者支援事業や中高生の学習支援事業などを実施していく。
- ・社会教育関連施設による1課3館連携会議を中心に連携を強め、事業や研修などを実施し、職員の資質の向上を図る。
- ・読書バリアフリーに対応できるよう多様な資料の収集、提供を推進する。
- ・図書館内の読書環境を維持するため、施設修繕や環境整備に取り組む。

(2) 中期的な取組方針(概ね実施計画期間を想定)

- ・多様化・複雑化する地域社会において、市民のニーズに沿った公民館・図書館主催事業や講座を開催し、生涯学習に関する市民意識や学習力の向上、学びを地域社会で活かす取り組みを展開する。
- ・市内の大学などの高等教育機関や地域関係団体、市役所他部課などと相互に連携した事業を展開し、生涯学習の環境づくりを醸成する。
- ・社会教育関連施設による1課3館連携会議を継続し、国立市における社会教育活動を充実させる。